

# 一中だより

<http://www.shimamoto-junior01.ed.jp>

9月号

令和2年9月1日（火）発行

島本町立第一中学校

校長 西田 敦子



令和2年度 学校目標 『 ころとからだのベストパフォーマンス 』 ～心身共に最善の選択をし、互いを想う～

## 「防災の日」に考えてみる

9月1日は「防災の日」です。これは1923年に起こった関東大震災が由来となっています。それに加えてこの時期は台風なども多く、その後も災害などに注意が必要だと考えられたからです。

私にとって強烈な天災は「阪神大震災」でした。最初何が起きたかわからず、真っ暗な部屋を歩いて足に怪我をしました。テレビ台のガラスが割れて散らかっていたのです。あちこちで大きな声が出て、近所でも混乱している様子が伝わってきました。でも本当に驚いたのは、テレビがつながって震源付近の様子が映し出されてからでした。崩壊した建物やあちこちに立ち上る炎を見て、戦争が起こった？と本気で思ったものです。何が起こって、自分はどうすればいいのかを考えるのに少し時間がかかりました。テレビには今では放映されない悲惨な状況が報道されていました。あの震災では建物の崩壊によって体が挟まれてしまい、まだ生きているのに助け出せずに炎に巻き込まれた人も多くいました。泣く泣く家族を放置せざるを得なかった心情を考えると胸が苦しくなります。当時の教訓から、耐震や防火について多くの見直しがされました。その後も大きな地震はあちこちで起こっていますが、生徒のみなさんにとっては数年前の「大阪北部地震」が心に残っているものになるのでしょうか。あの時みんなはどんなことを考えていましたか。

\*

\*

また、毎年この「防災の日」には、実は私は、ああ、またやってしまったと反省するのです。災害直後には、水や食料、その他の防災グッズなどを備えるのですが、その後次第に忘れていって、気づけば僅かな備えしかなくなっています。「備えあれば憂いなし」は物だけではありません。「避難訓練」もまた大事な備えのひとつです。東北大震災で日ごろから訓練をしっかりと行っていた釜石中学校の生徒が率先して高台をめざしたことで、多くの人々が助かったという話は有名です。さらに災害のあとも、助かった中学生が人々を支援する側に回って地域を救ったのです。まず自分の命を守る行動をとり、その後には周囲の人々を助ける側にまわることが中学生の力です。今日を一つの機会として、家庭での防災グッズや避難場所などをしっかり確認しておきましょう。

\*

\*

最後に、防災の三原則は、

①「想定にとらわれるな」      ②「その状況下において最善を尽くせ」

③「率先避難者たれ」

とされています。

あらためて見ると、‘人生への助言’のようにも思えます。防災について考えていくと、人生にたどりつくとは、なかなか奥が深い！この続きは「校長ブログ」に近日掲載してみます。  
(校長 西田敦子)